



D×O PhotoLab

©Scott Stuberberg

リリースノート

バージョン 5.0.2

Windows

最小システム構成:

SSE 4.1 をサポートする CPU

8 GB の RAM

4 GB のハードディスク空き容量

Microsoft® Windows® 10 バージョン 1809 以降 (64-bit、および Microsoft® 社がサポートしているもの)

推奨システム構成:

Intel® Core™ i7 第 4 世代以降、または AMD Ryzen™

16 GB の RAM

6 GB のハードディスク空き容量

Windows® 10 バージョン 2004 以降

最新ドライバでは NVIDIA GTX™ 1060、AMD Radeon™ RX 5500 以上

インストールとライセンス認証

- ソフトウェアのインストール前に、最新の Windows アップデートのインストールをおすすめします。

DxO PhotoLab 5.0.2 の新機能

バグの修正

- Sony A7R IIIA および A7R IVAが適切にサポートされるようになりました。
- 旧バージョンのPhotoLab から透かしプリセットが適切に移行されました。
- 並び替えが「日付順」に設定されている場合に、画像を削除してもアプリケーションがクラッシュしなくなりました。
- カスタムのPPI/PPC解像度が出力画像で考慮されるようになりました。
- ジオメトリツールで、補正ラインを適切に移動できるようになりました。
- コントロールポイントの半径を調整した後、ファイルが低解像度のままになるバグが修正されました。
- 旧バージョンの DxO PhotoLab からアップグレードした場合に、Nikon Z7 II、OlympusE-PL8 および OlympusE-PL9 の RAW 画像が適切にサポートされるようになりました。
- 微細なバグが修正されました。

DxO PhotoLab 5.0.1 の新機能

バグの修正

- 旧バージョンからローカルのデータを移行中に PhotoLab 5 がクラッシュしなくなりました。
- プロジェクトモードでメタデータを正確に同期するようになりました。
- プレビューの読み込みでキャッシュされた画像を表示するスピードが速くなりました。
- クロップ領域の描画で、不要なピクセルラインが表示されなくなりました。
- 「データベースから未使用のキーワードを削除」オプションを利用できるようになりました。
- メタデータをインポートまたはエクスポートできるのは、マスター画像からのみです。バーチャルコピーからはメタデータをインポートまたはエクスポートできません。
- PhotoLab の旧バージョンからアップグレードした場合、レーティングがゼロに設定された一部のケースが回避されるようになりました。
- 微細なバグが修正されました。

DxO PhotoLab 5 の新機能

- **RAW および JPEG 画像を現像して、簡単に高画質の仕上がりを実現**：DxO PhotoLab では、包括的でインテリジェントな自動補正機能をご利用いただけます。必要に応じて手動での調整も可能です。
- **部分調整機能を改良**：さらに感度が高くなった U Point™ コントロールをご利用いただけます。感度を変更して、コントロールポイントをさらに精密に調整できます。部分調整パレットを補完する新しい段階調整ツール「コントロールライン」もお試しく下さい。
- **フォトライブラリでの新しいメタデータ管理**：フォトライブラリの新しい専用パネルで、画像の EXIF および IPTC メタデータを簡単に編集できます これらの追加項目を使って写真を検索することもできます。
- **メタデータとサイドカーを同期する新機能**：画像のメタデータと XMP サイドカーファイルを手動または自動で同期できるようになりました。これにより、サードパーティアプリケーションとのワークフローがさらに円滑になります。
- **メタデータの選択的コピー&ペーストの新機能**：[選択的なメタデータを貼り付ける] コマンドを使って、メタデータの一部をコピー&ペーストできるようになりました。

- **エクスポートダイアログウィンドウでの新しいメタデータオプション**：エクスポートに含めるメタデータを選択できるようになりました (すべて、なし、IPTC、著作権情報と連絡先情報のみ、著作権のみ、EXIF、属性、キーワード、GPS 座標)。
- **キーワードツリーリストの新機能**：キーワード管理がこれまでにないほど簡単になります。データベースのすべてのキーワードとキーワード階層がツリーリストとして専用パレットで表示されるようになります。このパレットでキーワードを追加、削除、ドラッグアンドドロップしたり、好きなように整理したりできます。
- **メタデータとキーワードへのワークスペースの新しいアクセス**：DxO PhotoLab 4 から PhotoLab 5 へカスタムワークスペースを移行する場合、メタデータとキーワードにパレットメニューからアクセスできます。
- **Fujifilm X-Trans ファイルをサポート (ベータ版)**：Fujifilm X-Trans (ベータ版) カメラのユーザーの皆様にも、光学補正、デモザイキング、ノイズ除去で妥協のない画質を実現する DxO のテクノロジーをご利用いただけるようになりました。
- **処理スピードと効率性が向上**：常に改善され続けるアルゴリズムが、より高速で効率的な機能を実現します。ワークフローがこれまで以上に快適になりました。
- **サブサンプルの新オプション**：パラメータ設定時にメインビューワーで表示されるサブサンプル画像プレビューの表示を無効にできるようになりました。これにより、補正適用時に高解像度で画像を表示できます。
- **撮影日の編集が可能に**：メタデータパレットでファイルの撮影日を編集できます。撮影日データは RAW ファイルデータに影響を与えることはなく、PhotoLab のデータベースとサイドカーに保存されます。
- **エクスポートのサイズ変更オプション数が増加**：エクスポートの画像サイズ変更パラメータに新しいオプションが追加されました。最終結果をこれまで以上にコントロールできます。
- **UHD ディスプレイを新たにサポート**：グラフィックディスプレイのサポートが更新され、UHD スクリーンをサポートするようになりました。さらに優れたユーザー体験をご利用いただけます。
- **主要機能コンテキスト情報の新機能**：DeepPRIME、Clearview、Smart Lighting、部分調整、U Point、ディストーション、レンズシャープネスの補正パレットヘッダーにマウスを重ねると、コンテキスト情報が表示されるようになりました。
- **DxO Hub 表示の新オプション**：DxO Hub ウィンドウの表示のタイミング (アップデートが利用可能になった際、毎回、週 1 回、表示しない) を選択できるようになりました。
- **レーティング機能を更新**：レーティング機能の動作が更新されました。レーティングを保存し、サードパーティのアプリケーションと共有できるようになりました。
- **新しい機材のサポート**
DxO PhotoLab 5 のサポート対象に以下のカメラが追加されました。

Canon :
EOS Ra

DJI :
Air 2S
Mini 2

Fujifilm :

X-70	X-Pro2
X-100T	X-Pro3
X-100F	X-S10
X-100V	X-T1
X-E2	X-T2
X-E2S	X-T3
X-E3	X-T4
X-E4	X-T20
X-H1	X-T30

Nikon :

Z Fc

Olympus :

PEN E-P7

Panasonic :

GH5 II

Pentax :

K-3 III

Sony :

ZV-E10

現在、67,000 件以上のカメラとレンズの組み合わせをご利用いただけます。

既知の制限

- パース歪みとボリウム歪像補正ツールを使用するには、DxO ViewPoint プラグインが必要です。
- ロッシー DNG 圧縮を使用した DNG 形式のファイルはサポートされていません。
- Adobe Lightroom または Adobe DNG Converter 以外の変換ソフトウェアを使用した DNG ファイルのサポートは保証されていません。サポートされていないパッケージ (変換の有無に関わらず) に対応した DNG ファイルもサポートされていません。
- バイナリ IPTC を使用して画像をエクスポートすると、出力ファイルのメタデータが失われる可能性があります (メタデータはソース画像に保持されます)。
- ストライピングオプションを有効にすると、バイナリ IPTC を使用した画像のエクスポートと Photoshop 3.0 タグが失敗します。